

カラダの 相談室

梅田 脳・脊髄・神経
クリニック(大阪)
町田脳神経外科(東京)

理事長 田辺 英紀さん 第2回



首の痛み、手のしびれ、 使いにくさなどの原因や治療 法を教えてください。

Q 頸椎(けいつい)が経年変化で変性し、骨棘(こつきょく)・骨(とけ)やヘルニアが発生します。それにより、首の神経が圧迫・刺激され、首や手に痛み・しびれを起こしていきます。腫瘍も時に原因となります。進行すると、手足の使いにくさや両手足のしびれ感、感覺障害、さらには排泄(はいせつ)障害になることもあります。

A まず、治療を考えるときに大事なことは、症状を起こす原因が脊髄(せきずい)にあるのか、脳(のう)を神経学的に突き止めることです。歩きにくさなどは、腰部脊柱管狭窄症(とうぶせきりやうしょう)といいます。原因は腰ではなく、脳の障害や首の神経障害のほか複合的に起こることもあります。

また、症状が軽度であれば多く的人は痛みやしびれなどを我慢し、様子を見ています。しかし、その症状が脳梗塞(のうけいそく)の前兆ではないかと思って、当クリニックに来院・相談する人がいます。この考え方是非常に大事なことです。原因究明のために一度はMRIのある医療機関で検査を受けることをおすすめします。

当クリニックでは最先端機器で解像度の高い3・0テスラMRIや神経伝導速度検査、筋電図、デジタル脳波計、頸動脈エコーなどの検査機器を導入し、原因となっている病巣などを確定していきます。その結果、保存的治療か手術適応なのかを判断しています。もちろん最初は保存的治療です。「薬剤治療」と「ペインクリニック」、それから「理学療法」です。これが最初にやるべき治療になります。

たなべ・ひでき
1984年、大阪医科大学卒業。
医学博士。北野病院などで脳神経外科手術の研鑽を重ね、城山病院院長や田辺脳神経外科病院院長を歴任。年間600件以上の脳・脊髄手術を行う。2020年より梅田脳・脊髄・神経クリニックと町田脳神経外科(東京)の理事長を兼任。24年、日本脳神経減圧術学会会長。

☆梅田脳・脊髄・神経クリニック
生命梅田第二ビル1階 Tel 06・6312・0011
町田脳神経外科 東京都町田市根岸町1009の4 Tel 042・798・7337
日本

様子見せず一度はMRIを 生活で困ると手術の選択も

Q 手術を選択する方がよいのはどのような段階ですか。またどのような手術でしょうか。

A 保存的治療を1～3カ月間続けても症状の改善がなく、仕事や日常生活動作、趣味の継続に困っている人は手術を選択する方が良いと思います。何年も我慢している人も多くいます。ただ、神経の手術と聞くと怖くて躊躇(ちゅうちょ)する人が多いのですが、経験豊富な脳神経外科医は微細な手技を持つ脳手術のエキスパートです。手術をすると本当に症状が消失改善します。当クリニックには入院設備がありませんが、提携している大阪府下の2つの病院に入院していただき、私が執刀しています。

私が行う頸椎の手術です。「頸椎(けいつい)椎間板(ついかんばん)ヘルニア」や「頸椎症(けいついしよう)」の手術は、脳神経疾患の手術と同じです。脊髄の障害箇所が1カ所の場合には、顎微鏡を用いて、首の前方を3カ所ほど切開し、気管・食道・筋膜などの組織を傷つけずに、患部に近づき500円玉くらいのスペースを確保します。そして、脊髄や神経の本線の脊髄から左右に枝分かれする細い神経を圧迫するヘルニアや骨棘を取り除く(除圧する)低侵襲の手術です。約1時間の手術で、当日に座位食事、翌日には歩行可能で、約1週間で退院できます。

また、脊髄への圧迫が3カ所以上と広範囲にある場合は、首の後方からの除圧になります。その場合でも前方からと同じように低侵襲な手術です。(次回は腰の痛み、足のしびれ、歩きにくさ)



〈企画・制作〉産経新聞社メディア営業局

梅田脳・脊髄・神経クリニック

生命梅田第二ビル1階 Tel 06・6312・0011

町田脳神経外科 東京都町田市根岸町1009の4 Tel 042・798・7337